奈良教育大学同窓会会報

まほろば

第 23 号

目次

○会長挨拶、平成22年度活動方針 …… 2
○研修会のご案内 …… 3
○平成21年度同窓会一般会計決算書 …… 4
○学長挨拶 …… 5
○会員だより …… 6
　「二八（にわ）とり会」同窓会をして …… 6
　「34会」の歩み …… 7
○会員からのお便り …… 8
○きずな …… 9
○小川前会長挨拶 …… 10
○「寧楽教育塾」ご案内、表紙絵について …… 11
○事務局だより …… 12

❖ ご挨拶 ❖

会長　西田史朗

平城遷都1300年の記念行事が盛大に執り行われています。母校も創立122年、したがって同窓会も今年で120才であろうか。時は流れ地も移り学びの形も変わったが、一貫して引継ぐ想いは、同じ学びの園で青春の一時を過ごした、で結ばれるのが同窓会。

昭和35年の卒業以来50年、そのうち39年を母校で過ごす幸せに恵まれた。一時の中断はあるが入学以来54年、母校の変遷を身近に感じ見てきました。そして今、母校も同窓会も存続の正念場に立つ。

世の中の変転がめまぐるしい。人々の考え方・生き方・社会との結び方の多様化が著しい。そのことは同窓会の在り方について深く関わり、早急に将来構想を考えねばならない時期でもあります。

ここ数年、本会収支の逼迫が、従来の活動を大きく狭めてきた。さしあたり負担の少ない文化的な行事と支援を拡げ多少なりとも報いたい。同時に在学生へのいっそうの働きかけを模索する。在学中から奈良へ、母校へ、同窓会への関心を育み寄せていただきたく思うからです。

会員の諸兄姉には、悠久の古都奈良で、過ぎ去りし母校での若き日に想いを馳せ、よろしくご支援をお願いいたします。

平成22年度 活動方針

本大学は、国立大学法人奈良教育大学として、中期目標期間6年を経過し、第2期間へ更なる発展を目指して邁進されている。同窓会としては、本来の目的に従い、大学の運営方針に寄り添って協力し、同窓生の心のより所として前進していきたいと考えています。

理　念

○　会員相互の触れ合いを大切にして、親睦を深める。

○　学び合い語り合う場を設定し、互いに教養を高める。

重点目標

1. 会員意識の昂揚をめざし、会費納入の徹底を図る。
2. 支会活動の活性化をめざす。
3. 年次同窓会の組織運営を強化する。
4. 大学の発展に思いを致し協力する。

2011年 同窓会総会のご案内

■とき／平成23年5月15日（第3日曜日）
午前10時から

■ところ／奈良教育大学　山田ホール　他

○出席者は、準備の都合上、5月6日（金）までに事務局へお申込みください。

平成22年度　理事による委員会構成

	委員会名	委　　員（五十音順）
1	広　　報	北・倉本・染井・中村利・西尾・橋本清・松原
2	研　　修	井村崇・河原・小谷・中谷・野口・松村・南
3	総会企画	井村健・岩橋・岸田・中川・東出・山崎
4	大学関係	杉本・豊田・森本・吉田誠
5	組織運営	奥本・鈴木・武村・橋本佳

備　　考

○会長・副会長・事務局長は、上記の所属にこだわらず、全体を見通して連絡や調整に当たるものとする。

○必要に応じて、各委員会どうしで応援しあったり、拡大委員会を構成したりすることができる。

○委員会は、委員長を選出する。必要に応じて会を持ち、仕事をすすめ、必要事項については、理事会に諮るものとする。

研修会のご案内

【奈良教育大学同窓会120周年記念講演会】

私たちの同窓会も年を重ねて120周年を迎えました。めでたいことです。これに縁をいただいて、私たち自身も長命にいついつまでも有意義な人生を、送りたいものだと考えます。それには、どういう生き方をすればよいか、考えさせられるところです。

この度はそれに関わって、本会顧問の長田光男氏に右記の通り講演をお願い致しました。

有意義に長寿を全うした幾多の先哲の生き方を学び、これからの私たちの生きる指針になればと期待しています。

万障お操り合わせの上、是非ご来会くださいますようお待ちしております。

記

■日時　平成22年11月20日（土）
　　午後1時30分～午後3時

■会場　奈良教育大学　山田ホール

■講演　講師：長田光男氏
　　元奈良教育大学同窓会会長
　　大和郡山市文化財審議会会長

■演題　老いて衰えず
　　ー先哲の名言に学ぶ健康づくりー

※　一般の方もお誘いください。

— 研修委員会 —

平成21年度 奈良教育大学同窓会一般会計決算書（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

21年度の会費の決算は下記のとおりです。予算額ならびに比較増減は省略しました。

（歳入の部）

款	項	収入額(円)	備考
会費		4,704,600	
	1 通常会費	4,272,600	2,000×432 1,920×380 1,880×1,425
	2 入会金	282,000	1,500×188
	3 臨時会費	150,000	2,000×75（総会参加費）
寄付金	寄付金及び広告料	263,196	寄付･記念コンサート残金
繰越金	前年度繰越金	385,480	
利子	利子及び雑収入	340	利息
合計		5,353,616	

（歳出の部）

款	項	支出額(円)	備考
事務費		2,063,955	
	1 報酬	1,200,000	事務局長報酬
	2 諸手当	400,000	交通費・諸手当
	3 役員旅費	404,920	役員会旅費等
	4 備品費	25,935	
	5 消耗品費	9,145	金銭出納帳・模造紙等
	6 通信費	23,955	ハガキ・切手等
会議費		437,507	
	1 役員会費	23,012	本部会・理事会・評議員会・委員会等
	2 総会費	414,495	放送機器操作・懇親会費等
事業費		2,678,874	
	1 会報発行費	2,259,222	会報「まほろば」22号発行
	2 会員慶弔費	33,160	
	3 新会員歓迎費	242,750	入会歓迎会費･記念品（筒）
	4 事業活動費	143,742	一日親睦見学会補助
	5 事業基金	0	
予備費		228,040	
	予備費	228,040	
合計		5,408,376	

差引現在高 5,353,616−5,408,376＝−54,760

会費納入についてお願い

同窓会の年会費は2,000円です。下記の何れかの方法で納入してくださるようお願いいたします。

1.同封の振替用紙をご使用ください。
（できればATMを利用してください。）

2.直接現金、または郵便振替
（振替番号00900-2-9400）でも結構です。

会費は、できるだけ早くお納めくださるようお願いします。

監査報告

平成21年度の会計資料について監査をいたしましたところ、諸帳簿等はよく整備され、正確適正に処理されていたことを認めます。

平成22年4月9日

会計監査　広瀬　裕司 ㊞

峯田　孝治 ㊞

国立大学法人の第2期中期目標計画期間を迎えて

学長　長友恒人

同窓会会員の皆様、奈良教育大学への日頃の暖かいご支援に心から感謝申し上げます。また、一昨年の創立120周年に当たって、多額のご寄付をいただきましたことに心からお礼を申し上げます。本学は、従来から、学生支援基金と学術交流基金を設けていましたが、この機会に学術交流基金を国際・学術交流基金として拡充することとし、創立120周年のご寄付は全額をこれら２つの基金に当てさせていただきました。今後、これらの基金を活用して、学生支援、教育研究、国際交流の一層の充実を図りたいと考えています。

国立大学法人化後６年が経過して、本年度から平成28年度までの第２期の目標・計画期間が始まりました。第２期においても、第１期に引き続いて、「創立以来の学問・学芸を尊ぶ学風を継承し、高い知性と豊かな教養を備えた人材、とりわけ人間形成に関する専門的力量を備えた有能な教員及び教育者を育てる」ことを本学の基本的な目標として、その実現のために全教職員が一致して奮闘する所存でございます。

第１期の５年目（平成20年度）には、法人化当初には予定していなかった教職大学院（教育学研究科専門職学位課程）を設置し、本年３月に第１期の修了生を輩出いたしました。また、現在、学部においては平成７年に発足した新課程（現在の総合教育課程）を廃止して教員養成に特化する方向で抜本的な改組の検討に取り組んでいます。15年以上に亘って培ってきた新課程における教育の成果を再構築して新しい教員養成課程に生かすこと、総合教育課程と教職大学院で確立しているカリキュラムフレームワークを学部と大学院を見通した教員養成プログラムの中核として（高度）専門職業人としての教員養成を組織的に高度化すること、を念頭に置いて改組を検討しています。この間、理数教育研究センター及び特別支援教育センターを設置し、キャリア支援教育の一環としてボランティア支援センターを立ち上げましたが、既存のセンターを含めて全学のセンターを学部と大学院の教育研究をバックアップする組織として再編する計画も、今年度中に実施する方向で具体的に検討中です。

これら一連の改革は、ユニバーサル化（当該年齢の半数以上が大学に進学）とグローバル化（教員としての資質が世界に通用する）を迎えた21世紀の教員養成を視野において取り組んでまいります。

さて、本年３月の卒業生の教員就職率は70％を超えました。学校現場では本学で培った能力を発揮してくれるものと期待していますが、先輩諸氏のご指導をよろしくお願いいたします。

最後に、同窓会員の皆様のご健勝を祈念し、今後とも母校の発展のために物心両面からのご支援とご指導を心からお願い申し上げます。

後期高齢者と呼ばれる身にはなったけれど
第6回「二八(にわ)とり会」同窓会をして

昭和30年卒　宮久保　すずこ

去る4月20日、私達にゆかりのある春日野荘で第6回「二八(にわ)とり会」の集いをしました。二八(にわ)とりの二八(にわ)は昭和28年入学ということで、とりは「群れてさえずる」ということから、「私達も2年に1回の同窓会でご馳走をついばみながら、それぞれ言いたいことをしゃべり、さえずりましょう」という意味で名づけられました。

当日は春雨で、葉桜の若緑が一段と美しく映えていました。11時受付でしたが、みんなこの日を待ちわびていたのでしょう、この時刻には出席予定者全員が揃いました。遠くは小豆島、四国、東京からきてくれた仲間には、心から敬服すると共にとても力強く嬉しく思いました。中には今もなお元気でボランティアをしたり、また趣味の会等で都合がつかない人、家族の介護で出られない人、自分の体に自信がなく出席することをためらっている人もあり、このように欠席を余儀なくされていることは大変寂しく残念に思いました。一応揃ったところで記念撮影となり、カメラマンはプロ級の会員Sさん。2、3回のチーズで無事終り、後は出来上がりを待つばかり。

今回の座席は、ちょっぴり遊び心で、著名人の姓と名を組み合わすことにしました。総理大臣や作家、一世を風びしている歌手等、しばし別人になった気がしました。全員着席し、先ず物故者への黙祷。続いて代表者挨拶、乾杯に続いて宴会。テーブルの順に二八(にわ)とりのスピーチが始まりました。地域でボランティアをしている人、巾広い趣味を生かしている人、家業の農業に頑張っている人等、その活躍ぶりには目を見張るばかり。後期高齢者なんてとんでもない、まだまだ中堅級です。仲間として大変頼もしく思いました。最後にカラオケや、リハビリを兼ねた「これから音頭」「幸せのワルツ」(星影のワルツの替え歌)をみんなで歌いました。

2年後の再会を待ちきれず、1年後に1泊旅行と決まり、2年後の同窓会の幹事と同時に旅行の幹事も決めました。勿論、今回出席できなかった友には、今回の記念写真とお便りを送ることも忘れませんでした。

加齢とともに崩れやすい体調にも気遣いながら、一年後の再会を楽しみに散会しました。

「34会」－昭和34年卒一部同窓会－ の歩み

昭和34年卒　福森修平

昭和34年3月18日に一部を卒業した者51名（昭和30年に一甲に入学した者と一乙に入学し、その後編入した者）。卒業年次が昭和34年ということで「**34**会」と命名、開催日も毎年**3**月**4**日と決めている。

開催経過は次の通りである。

回	年	開催場所	出席者数
1	平成14年	奈良市「春日野荘」	23名
2	平成15年	大阪市「ホテルアウィーナ大阪」	19名
3	平成16年	奈良市「ウエル飛火野荘」	16名
4	平成17年	大阪市「くいだおれ」	16名
5	平成18年	奈良市「かんぽの宿奈良」	16名
6	平成19年	大阪市「KKRホテルオーサカ」	19名
7	平成20年	奈良市「猿沢荘」	22名
8	平成21年	大阪市「以和貴荘」	18名
9	平成22年	奈良市「万葉荘」	19名
10	平成23年	奈良市「春日野荘」	名

来年（平成23年）は10回目という節目の会を迎える。一人でも多くの旧友が集まり、祝福できる盛大な会となるよう願っている。

開催地域は、奈良と大阪と交互に開催し、同じ会場で開催しないことを原則としてきたが、やはり母校がある奈良市が懐かしく落ち着くという意見が多くあり、次回からは奈良市で開催する。

出席者は固定化されてきているように思うが、遠く東京・鹿児島・福井・岡山などから毎回参加される旧友もいる。回を重ねるにつれて、旧交を一層深めるよい機会となっている。

今生きていることの感謝と生きる力を与えてくれる旧友のありがたさをひしひしと感じさせてもらっている。

お互いにまず健康に留意し、一日一日を大事に生き、再会できる日を楽しみに待っている。いつまで続くかわからないが、二人以上集まれば開催し継続させたい。

（「34会」事務担当）

会員からのお便り

生涯にわたる自己充実

昭和３３年卒　　大　山　徹　眞

天理の木「いちょう」も黄色に色づき、２年振りに顔を寄せ合う。

事前の近況報告に加え、各自人生の今を報告することにしている。病気の克服など身体にまつわることが多い。突然の事態に家族や周りの人の厚い支援。米づくりをはじめとする農作業も「遊ばせてもらっている」と思えば楽しい。詩吟の最高峰「総師範・会長」をし、今民謡にチャレンジ。歌碑や古墳・遺跡めぐり。学童保育の子どもや親に出会う。理科の実験支援、教室が楽しい。無常迅速、いのちのバトンタッチ、老病死をどう生きるか、一人一人の課題を学びあった。

それに、長年「紅山古玉・紅山文明」について探索研究している中川君の話。今後も同窓生のメイン報告を続け、我々の今を生きる「玉」に磨きをかける機会にしたい。ここに彼の話を再掲させてもらった。

「紅山文明と紅山古玉」　　中川　寿郎

私と紅山古玉との出合いは、今から二十年ほど前に、ある古美術商が、朝鮮の古いものを中国の東北部に捜しに行き手に入れてきたものの中に混っていた。それはかつて見たことがない不思議な玉で造られた「地母神」であった。その造形のすばらしさに心を打たれ、たとえそれが現代造られたものでも別にかまわない。と思い手に入れた。その後はこの種の作品を求めて、各地で開かれた骨董市や古美術店を訪れた。古美術店では希に日本の勾玉の一種として見かけたが骨董市に並べられていたものは現在作られた似て非なる愚作ばかりであった。紅山古玉は、中国東北部で偶然発見されたのをきっかけに黄河文明より以前（BC3800−2700）に内モンゴルや遼寧にすばらしい文化が栄えていたことを明らかにした。現代の中国の学者たちは、この遼河文明を「中華文明の起源、世界最古の文明」と主張するようになり、朝鮮の愼鏞廈（シンヨハン）梨花学術院教授はトルコ・ブルガリア・ハンガリー・フィンランド・エストニアにつながる「古朝鮮文明圏」に拡大して見ることを主張されている。

私にとっての紅山古玉の最大の魅力は、その精神性の深さにある。私は大学で「般若心経」を教えているが「心経」の「色即是空・空即是色」は、この縄文人の宇宙観からきたものではないかと思う。「我即是汝・汝即是我」「私の中にあなたあり・あなたの中に私あり」紅山古玉の神像は二種または三種のトーテム（鳥・魚・牛等）の合体像だが、そのトーテム間に格差なく一体化したものである。石器以外に強力な武器もなく、体力的にもすぐれていない人類が生きのびてゆくための知恵。それは、すべてのものとの共生ではなかったかと思う。神像は崇高で端正、それぞれのトーテムの本質を的確にとらえて端的に表現している。また、玉そのものの形や色、その材質が最も活かされるよう玉そのものに問いかけ、自然に生み出されてきたような神像である。

紅山古玉は、世界の新石器文明を考案する上でも、また日本の古代文明を解く上でも大切なものだと思う。

き　ず　な

第10回「林　宏　先生を偲ぶ会」

昭和41年卒　細　見　俊　樹

去る11月8日、先輩の方たちのお骨おりにより林先生から地理・民俗学を学んだ者が集まることができました。

林先生を偲ぶ会もはや10回を数え、参加者の顔ぶれもすっかりいいお爺さんお婆さんと言ったらしかられるでしょうか。今回は、昨年に比べると参加者が17名と少なかったのですが中身は濃いものでした。

さて、その中身ですが今回、やや趣向を変え奈良大学の碓井照子先生（昭和45年教育大卒）から地理学の現状についてお話を伺いながら林先生を偲びました。

まずはじめに、「林先生に学んだ地理学」と題して、林先生の思い出や、先生の〈十津川郷採訪録　記録ノート*①〉ほか、在りし日の先生の写真などをプレゼンテーションしていただき、細かく几帳面な先生独特の文字や絵図にみんなたちまち学生時代にタイムスリップ。先生の家や各地へのフィールドワークなどに連れて行っていただいた思い出話などに花が咲きました。

みんな、自分がかわいがっていただいたと思っているけれど、先生はみんなを同じ目で見、できる人も、できない者も自分の抱えている学生として見てくださった。我々教員の鏡だったのだと語り合いました。

林先生から学んだ地理学とは、①フィールドワークのおもしろさや、重要さを教えられたこと。②地理は生活を重視すること。

自然と人間の関わりに於ける生活の重要さを学んだことなど（以下⑥まで省略）とまとめていただきました。

あと、昼食をとりながら歓談。遠路はるばる訪ねてきていただいた方、奈良近郊の方それぞれ今のご活躍ぶりと共に、若き学生時代の思い出を語っていただきました。

あとになりましたが碓井先生には現在地理学の問題点の一つとして、高校の教育の中で地理が教えられなくなり学生の地理的な知識が非常に低下していること、若い教員の中にも地理をきちんと学ばない教員が増加していることなど教えていただきました。

また、奈良大学の地理学関係の教室、研究室などの一部も見学させていただきました。その中で「地図が読めるということ」「GISの話*②」などもして頂きました。

立派な研究施設を見せていただきながら、母校の現状はどうなのか？独立法人になってから経済的に悪戦苦闘されているのではないか？と皆母校に思いを寄せているようでした。苦労が続くだろうけれど母校の発展を願わずにはいられません。

お世話を頂いた幹事の皆さんに心より感謝申し上げます。

---

*①（林先生が十津川を訪れられたのは昭和20年代からその採訪記録は大学ノート31冊。林宏十津川採訪録全5巻として十津川教育委員会より出版されているそうです。）

*②（GISとは地図の上に様々なデータを載せるシステムのことを言い、現代の社会生活になくてはならない情報基盤となっています。地理情報を利用する場合には不可欠となっています。）

復活の旅

小川　クニ子（昭和19年卒）

この度、私は十年間の同窓会長を辞めさせていただき、真実ホッと致しております。「長」と名の付く経験もない私が、ようまあ無事におつとめ出来たことだと思っております。私を許し、支えてくださいました皆様方に感謝し、改めて御礼申し上げたいと存じます。有り難うございました。

さて、「ちょっと何か書くように」との急なお話で、思いつきましたのが先月、友人のKさんを誘って参加しました「高尾山・川越・奥秩父三日間の旅」です。

4月12日、生憎の雨でしたがKさんは新大阪から出発、私は京都から参加して特急で塩尻までいきました。久しぶりの信濃路は雨に濡れて美しく、まだ桜がいっぱい咲いていてそれから先の旅が楽しみになりました。

最初に立ち寄った榛名湖は雨に煙って何も見えず、美味しい花豆だけを沢山みやげに、水沢観音のお参りもそこそこに伊香保のホテルに着きました。

二日目は私の期待していた川越と高尾山です。幸い朝から晴れて気持ちのよい天気になりました。川越は「小江戸」と言われ、蔵造りの町並みで有名ですが、その見事な屋根の造りを写生しようと欲張りましたがたった一時間では無理で、とうとう描けませんでした。早世した亡夫の友人が近くの東松山の方（今は故人）で、夫の五十回忌のころ、川越のお菓子を持ってお参り下さったことを懐かしく思い出しました。

高尾山というのは400メートルほどの山で八王子市にあり、薬王院という天狗さんのお寺があって、奈良でいえば生駒山や信貴山のように関東の人たちには信仰の山として親しまれているようです。寄進された杉の大木が沢山ありました。私は頂上まで登って富士山を見ることは初めから断念していました。ケーブルの駅の近くで遊ぶつもりでしたが、やっぱり中腹にある薬王院へお参りしたくなりました。緩い坂道とはいえ、往復1時間半近く山道を歩きました。行き着いたお堂も高い石段の上でした。もう脚腰はくたくたでしたが、その夜の石和温泉のワイン風呂のお陰で、第三日も元気で羊山公園の芝桜の丘や荒川上流の美しい岩場、長瀞へ行くことが出来ました。そこでは満開の桜とこぶしを一緒に眺めることが出来ましたし、6キロに及ぶ見事な桜並木の道を通って花の春を再び満喫させてもらいました。

ところで、私は去年の5月に腎盂炎を患い、そのあと歩けなくなって回復するのに4ヶ月かかりました。幸い秋には外出も自由になり、歩くことに努めましたが精々30分程で好きな旅行も差し控えてきました。しかし、元気になるとまた旅がしたくなり、とうとうこの旅に参加したのでした。それは冒険でしたが、健康回復の自信を与えられました。

病気をしたことで命には限りのあること、今からはどう生きるべきかをつくづく考えさせられました。年を重ねて気の付くこと、これからもしたいことがいろいろありますが、もう無理をしないで、ぼつぼつ努力していきたいと考えております。

どうぞお見捨てなく、これからもよろしくご厚誼のほどお願い申し上げます。

（平成22年5月20日 記）

平成22年度「寧楽教育塾」ご案内

「平城遷都1300年祭」寧楽教育講演会

夏期講座

■日　時　　平成22年8月7日（土）　13時～17時
■場　所　　奈良教育大学本部（管理棟）2Ｆ大会議室
■講師と演題　竹村　　昭　氏「中高年期の健康問題」
　　―― 豊かで健康的なアンチエイジングとヘルシーライフ ――
　　山内　洋一郎氏「かな；その歴史の中の謎の数々」
　　松村　竹子　氏「奈良から世界へ！世界遺産奈良公園の環境科学
　　～卒業論文アーカイブから～
　　玉瀬　耕治　氏「カウンセリングあれこれ」

秋期講座

■日　時　　平成22年11月6日（土）13時～16時
■場　所　　奈良教育大学本部（管理棟）2Ｆ大会議室
■講師と演題　脇田　宗孝　氏
　　「古今東西やきもの見聞録：大和の土器たち」
　　（後援：平城遷都1300年記念事業協会）

ギター・マンドリングクラブ（教育大生）

表紙の絵について

昭和33年卒　福　井　義　博

馬酔木より　低き門なり　浄瑠璃寺
（水原　秋桜子）

馬酔木が咲き初める頃の浄瑠璃寺が好きである。

小ぢんまりした山門をくぐり、三重の塔の石段を登りつめ振り返ると、九体の国宝阿弥陀仏が安置されている国宝の阿弥陀堂本堂と池が視界に広がる。高く繁る常緑の木々がその後を飾る。そちらが西方であり、池の向こうは彼岸＝西方浄土を表しているという。

この頃は、山内の空気が殊に静寂で、澄み渡っているようで、心地よい。常緑の森と季節の気がもたらせてくれているように思っている。

退職してから毎年、全くの素人の水彩画であるが、あちこちの風景を切り取り勝手に構成して、教職員展に出品させていただき、今年で15回になる。

今年は好きな浄瑠璃寺の気を描いてみたいと願いまとめてみた。とても思うようにはいかなかったが、絵を見た先輩に賞めていただき、ここへ推薦していただいた。光栄ではあるが、身の程知らずを恐縮しながら出させていただいた次第である。

事務局だより

○　母校奈良教育大学は、国立大学法人奈良教育大学として、中期目標期間6年を経過し、第2期間へ長友恒人新学長を迎え更なる発展を目指して邁進されている。教員養成大学は時の利を得て不況・不景気の中、教採枠は、まだ増え続けています。昨年教員採用試験合格率も全国有数の成績を収めました。今年も奈良県はじめ大都市では、採用枠が拡大しています。30数都道府県へ卒業生・修了生を送り出しています。ますますの健闘を祈りたい。

○　年々同窓会会費の納入率が落ちてきています。現在の会費納入では、通常の運営にも支障をきたしています。会費納入者に領収書代わりに会誌をお送りしていますが、今年度も困難な状況です。しかも、振込みの際、窓口で振り込んで頂くと手数料が120円かかります。振り込んで下さる際にはATM（自動預払機）を。もしくは現金書留・年次同窓会幹事様・お近くの理事・評議員の方々に預けて頂いて事務局に届けてくださると幸いです。

○　会員の死去に際しては、弔電を打っていますが、知り得るのは新聞紙上や会員よりの連絡等に限られています。特に女性の方、県外の方の消息はつかみかねています。ご連絡をよろしくお願いします。昨年は50数名に弔電を打たせていただきました。

○　同窓会のホームページを年々更新していますが、すでに、17,000名の方々がホームページを開いてくださっています。感想等をお寄せください。

　ホームアドレス・連絡先を下記に記しますので、転居・改姓・住居表示変更の場合速やかに事務局までお知らせください。毎年、250～270名前後の住所未確認者が出ています。

http://www.nara-edu.ac.jp/home-jp.htm

奈良教育大学のホームページを開いていただいて、そこから同窓会のホームページを開くことが出来ます。その他の連絡は、下記まで。

電話 0742-27-9105（大学総務課より呼び出し）
　　0743-77-8848（杉本宅）
　　090-1022-8370（杉本携帯）
　　E-mail　sugimoto@nara-edu.ac.jp

● 個人情報保護には、万全を期しています。

編集後記

○　新緑鮮やかな教育大学構内に入ると、教職を目指す若人の溌剌とした姿が目に留まり、心身の爽やかさを感じます。

○　会報「まほろば」23号をお届けいたします。西田新会長のお言葉とともに、長年、会長職を務められた小川前会長の玉稿も寄せていただきました。

○　そして、会員の皆様方からは、積極的なご寄稿を賜り心からお礼申し上げます。表紙の絵は、福井義博氏（昭33年卒）にご提供いただきました。「表紙の絵について」のコメントから氏の深い想いが伝わります。

○　会報22号に誤りがありました。p8の歌に、「八街」という言葉がありますが、正しくは「八衢（やちまた）」でした。誠に申し訳なく心からお詫び申し上げます。

○　会員の皆様方からご理解とご協力をいただき、広報委員一同心を新たにしています。今後も会報へのご参加をお待ちしています。

平成22年度広報委員会委員（五十音順）

北　　良夫、倉本政太郎、染井真由美
中村　利典、西尾　千尋、橋本　　清
松原さおり

平成22年6月23日　発行
奈良教育大学同窓会会報「まほろば」第23号
－題字　故川淵勝男元会長－
発行所　奈良教育大学同窓会事務局
〒630-8301
奈良市高畑町　奈良教育大学内
☎0742-27-9105（総務課経由）
郵便振替番号00900-2-9400
発行兼編集　奈良教育大学同窓会広報委員会
印刷所　関西印刷株式会社
奈良市南半田中町19・20番地